

(実践報告) 抄録用紙

|                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| 演題名<br>(全角 80 字以内) | 訪問診療専門のクリニックにおける MSW の役割～配置前から現在まで～ |
| 演者名                | 井上ゆか、南 智子、川井田佳美、岡田 豊、中村幸伸           |
| 所属                 | つばさクリニック                            |

【目的】

当院は訪問診療に特化したクリニックとして岡山県倉敷市に 2009 年 4 月に開院し、現在約 400 名の在宅患者に対して訪問診療を行っている。新規患者の受付やカンファレンスの調整、相談支援業務に関しては当初看護師が行っていたが、看護師は訪問診療に同行しなくてはならないため、タイムリーに調整を行うことが困難であった。そういった理由から 2013 年 4 月より MSW が配置されることになった。今回当院における MSW の業務を紹介し、役割や意義について検討したので報告する。

【実践内容および効果】

2013 年 4 月に MSW1 名が配置されてから、まずは新規患者の受付やカンファレンスの調整、患者からの相談を行うようにした。対外的な調整窓口を MSW に 1 本化したことで、依頼者側（病院 MSW や居宅ケアマネジャーなど）と情報交換が行いやすくなった。さらに新規患者相談の受付シート項目を整理することにより、受付内容を統一した。2014 年 3 月に MSW が 2 名配置になってからは、新規患者調整については受付だけでなく、初回訪問までの細かな調整を MSW が一貫して行う事になった。新しい取り組みとしては、日報/月報を付けることにより相談件数や内容を把握、分析することを始めた。2014 年 6 月からは看護師と MSW で初回訪問に入る前の患者や家族に対し事前説明に出向き、訪問診療の概要を説明したり、自宅の環境把握や家族の意向の確認ができるようになった。また MSW が複数になったことからカンファレンスに多く参加できるようになり、顔の見える連携につながってきた。さらに行政や障害福祉サービスとの調整、情報共有や、重い障害を持つ小児患者精神疾患に対する相談支援など、支援の幅を広げつつある。

【考察】

MSW 配置後、業務が確立されたことにより、訪問診療専門クリニックにおける患者調整や外部との連携がよりスムーズに行えるようになった。さらに在宅で生活されている患者を支援するため MSW としての役割、専門性を深めていきたい。